

疾病 (異常)	<h2 style="text-align: center;">26 炎症（皮膚、筋肉の炎症）</h2>
肉 眼 所 見	<ol style="list-style-type: none"> 1 痂皮性皮膚炎 <ul style="list-style-type: none"> ・大腿部、背部、腹部などの、表皮に限局して発生し、皮下織に波及しない。 ・病変部の皮膚は脱羽し黄褐色を帯び、羽包部がやや腫張し、多量の痂皮により覆われる。 ・痂皮の形成は軽度で、皮膚が淡明化して広範囲に肥厚する場合もある。 2 胸部嚢胞 <ul style="list-style-type: none"> ・同一ロットに多発する傾向がある。 ・胸骨滑液包に液状成分が貯留して、嚢胞状に拡張している。 ・貯留した液状成分は漿液性で、細菌などの二次感染があれば混濁する。 ・経過が長びくと周囲の皮下織が水腫になったり、結合組織が増生したりする。 3 被嚢化膿瘍 <ul style="list-style-type: none"> ・主に蜂窩織炎の慢性病変にみられ、左右いずれかの内股部に隆起状の結節病変として認められることが多い。 ・皮膚の色は淡黄色や黄色を呈し、隆起はその膨らみが明瞭なものや滑らかなものがあり、多くは硬結感がある。 ・皮下織の病変は比較的限局的であり、結合織に包まれた病巣にはチーズ様物や滲出液を入れ、血様物が混じることもある。 4 化膿性筋炎 <ul style="list-style-type: none"> ・著しい発育不良と左右脚の不对称を併せ持つ個体において、病変の多くは細い側の片脚に存在し、筋肉を主体に関節に波及することもある。 ・皮膚の色は正常もしくは部分的に淡桃色を帯び、稀に足関節の周囲に出血や黄色化が認められるものがある。 ・大腿と下腿の両方あるいはいずれかの筋肉間に滲出液や黄色チーズ様物が認められる。 ・筋肉病変に隣接する関節は時に滑膜が肥厚し、関節腔にチーズ様物を入れている場合がある。
廃棄等の根拠	別表第9又は別表第10

疾病 (異常)	26 炎症 (皮膚、筋肉の炎症)		
			
<p>背部、腰部皮膚には広範な黄褐色のワッフル様痂皮病変が認められる。</p>	<p>胸骨滑液包内に血液、液体成分、粒状滲出物等が貯留している。</p>	<p>左内股部に淡黄色の明瞭な隆起状結節が認められる。</p>	
			
<p>隆起状結節を切開すると滲出液と巻状のチーズ様物を入れている。</p>	<p>左内股部に淡黄色で滑らかな隆起状結節が認められる。</p>	<p>隆起状結節を切開すると湿潤な板状のチーズ様物を入れた結合織で包まれている。</p>	
			
<p>病変は消瘦・発育不良と左右脚の不对称を併せ持つ個体の比較的細い側の片脚に認められることが多い。</p>	<p>大腿部を切開すると筋肉間に粒状の黄色チーズ様物が充満している。</p>	<p>大腿部及び下腿部を切開すると膝関節を起点にして、筋肉間に黄色チーズ様物や滲出液が貯留している。</p>	